

シラバス

指定番号 149

商号又は名称：大阪府立淀商業高等学校

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	① これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」「施設におけるケア」等のサービス内容について理解できる。 ② 介護職とはどのような目的でどのような仕事内容を行うのか等の具体的なイメージを持って、研修を実践的に取り組むことができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスと理解	4	4	0	<講義内容> 1. 介護保険サービスと介護保険外サービスについて 1) 介護保険サービス (1)居宅サービス・介護予防居宅サービス (2)地域密着型サービス・介護予防地域密着型サービス (3)施設サービス 2) 介護保険対象外サービス (1)介護保険対象者への介護保険外サービス (2)介護保険対象外の方への介護サービスなど <演習実施方法> グループワークを通じて、訪問系、通所系、入所系の長所と短所を考え、理解を深める。
② 介護職の仕事の内容や働く現場の理解	2	2	0	<講義内容> 1. 介護職とケアプランサービス提供の流れ 1) 多様な現場におけるそれぞれの仕事内容 2) ケアプランとサービス提供の流れ <演習実施方法> グループワークを通じて、「もし、家族が介護保険サービスを利用するならばどのようなサービスを利用するか」を考え、理解を深める。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	① 介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを理解できる。 ② 自立視点、介護予防という介護・福祉サービスを提供するための基本的な視点及び、行っていない言動を具体的に理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	4	4	0	<講義内容> 1. 人権と尊厳の保持 1) 個人としての尊重(アドボガシー、エンパワーメントの視点) 2) 尊厳の保持～尊厳のある暮らしと「役割の実感」～ 3) 尊厳の保持を具現化するために 4) 利用者のプライバシー保護 2. ICF 1) 介護分野におけるICF 3. QOL 1) QOLの考え方、生活の質 4. ノーマライゼーション 1) ノーマライゼーションの考え方 5. 虐待防止・身体拘束禁止 1) 高齢者虐待防止法と虐待防止 2) 身体拘束禁止と廃止のための5つの指針 6. 個人の権利を守る制度の概要 1) 個人情報保護法 2) 成年後見制度 3) 日常生活自立支援制度 <演習実施方法> グループワークを通じて、「尊厳とは何か」・「介護現場で起こりうる尊厳の侵害」について考え、理解を深める。
② 自立に向けた介護	3	3	0	<講義内容> 1. 自立支援 1) 自立支援とは 2) 自立支援の視点 3) 自立支援の3段階 4) 生活不活発病(廃用症候群)の防止と残存能力の活用 5) 意欲を高める支援 6) 個人の自立とグループの自立 2. 介護予防 *視聴覚教材活用 1) 介護予防の定義と目指すもの 2) 介護予防の考え方 <演習実施方法> グループワークを通じて、「介護を必要とする人に対して意欲を高める支援にはどのようなものがあるか」を考え、理解を深める。
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	<講義内容> 1. 人権について考える 2. 人権啓発について理解する <演習実施方法> 最近の新聞記事から人権に関わる問題を取りあげ、グループで、よりよい社会を創造していくためにはどのようにすればよいかを話し合い、理解を深める。
(合計時間数)	9	9	0	

使用する機器・備品等	視聴覚教材「自立支援と介護予防」 東京シネ・ビデオ株式会社
------------	-------------------------------

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	① 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性を理解できる。 ② 介護現場におけるよく発生する事故について、その対応策を考えることができる。 ③ 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点からよりよい支援を考えることができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	2	0	<講義内容> 1. 介護環境の特徴と理解 1) これからの介護環境 2) 訪問での介護と施設介護の違い 3) 地域包括ケアについて 2. 介護の専門性 3. 介護にかかわる職種 1) 異なる専門性を持つ多職種の理解 2) 介護支援専門員 3) サービス提供責任者 4) チームケアとして利用者を支える意味 5) 専門性を生かしたチームケアにおける役割分担 <演習の実施方法> グループワークを通じて、「異なる専門性を持つ者が協力し合って仕事を進めていくための重要点」について考える。
② 介護職の職業倫理	1	1	0	<講義内容> 1. 職業倫理、介護福祉士制度について 1) 介護の倫理、介護職としての社会的責任 2) 介護福祉士制度 3) プライバシーの保護、尊重 <演習の実施方法> グループワークを通じて、「介護現場ではどのような時にプライバシーを傷つけることが発生するか」を考え、理解を深める。
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	2	0	<講義内容> 1. 介護における安全の確保 1) 事故に結びつく要因を探り対応していく技術 2) 安全の確保 2. 事故予防、安全対策 1) 利用者に対するリスクマネジメント 2) 事故報告・情報の共有 3. 感染対策 1) 介護で問題となる感染症 2) 感染予防の基礎知識 3) 感染経路別予防策 <演習の実施方法> 使用テキスト添付DVD「ケース問題 ～グループホームで起きた事例～」を見て、ヒヤリハットする場面からヒヤリハット報告書を作成し、安全対策について考える。
④ 介護職の安全	1	1	0	<講義内容> 1. 介護職の安全管理・健康管理 1) 介護職の健康管理と介護の質 2) 感染症予防・対策 3) ストレスマネジメント 4) 腰痛予防 <演習の実施方法> バーンアウト尺度表（アンケート）を用いて、ストレス評価について具体的に考える。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	使用テキスト添付DVD「ケース問題 ～グループホームで起きた事例～」
------------	------------------------------------

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	①介護保険制度や障がい者総合支援制度について、制度の目的、サービス利用の流れ、各種専門職の役割・責務について理解できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	3	3	0	<講義内容> - 介護保険制度創設の背景、目的および動向 - 制度の背景・目的・動向 - ケアマネジメント - 介護予防重視型システムへの転換 - 地域包括支援センターとは - 地域包括ケアシステム - 仕組みと基礎的理解 - 保険制度としての基本的仕組み - 介護給付・介護予防給付と種類 - 要介護認定の手順 - 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 - 財源負担 - 指定介護サービス事業者の指定 <演習実施方法> 大阪市が発行している介護保険パンフレットから、介護保険事業計画についてグループで調べ学習を行う。
② 医療との連携とリハビリテーション	2	2	0	<講義内容> - 医療との連携 - 医行為と介護 - 介護職員等による痰の吸引などの実施のための制度について - 訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携 - リハビリテーションの理念 - リハビリの視点 - リハビリの基本知識 <演習実施方法> 介護職ができる（医行為ではない）行為について、グループで考え、理解を深める。
③ 障がい者総合支援制度およびその他の制度	4	4	0	<講義内容> - 障がい福祉制度の理念 - 障がいの概念 - 障がいの種類 - I C F - 生活機能の改善 - 障がい者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 - 個人の権利を守る制度の概要 <演習実施方法> 高齢者や障がい者の権利を守る日常生活支援事業制度について学び、日常生活において騙されやすい悪徳商法についてグループで考える。
(合計時間数)	9	9	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	① 高齢者や障がい者の一人ひとりの違いに応じたコミュニケーションを図ることができる。 ② 介護初任者として、コミュニケーションの重要性を理解し、専門職としてのコミュニケーション技術を身につけている。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3	3	0	<講義内容> 1. 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割 1) 相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 2) 傾聴と共感 2. コミュニケーションの技法 1) コミュニケーションの種類 2) パーバルコミュニケーション 3) ノンバーバルコミュニケーションについて 3. 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 1) 利用者とのコミュニケーション 2) 家族とのコミュニケーション 3) アセスメント手法とニーズとデマンドの違い 4. 利用者の状態に応じたコミュニケーション技術の実際 1) コミュニケーション技術の基本 2) 視力・聴力障がいに応じたコミュニケーション技術 3) 失語症に応じたコミュニケーション技術 4) 構音障がいに応じたコミュニケーション技術 5) 認知症に応じたコミュニケーション技術 <演習の実施方法> 2人1組となって、ノンバーバルコミュニケーションを意識したコミュニケーションを行い、よりよいコミュニケーションとは何かを考える。
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	3	0	<講義内容> 1. 記録における情報の共有化 1) 介護における記録の意義・目的、利用者の状況を踏まえた観察と記録 2) 介護に関する記録の種類 3) 個別援助計画（訪問・通所・入所・福祉用具貸与など） 4) 介護周辺の記録 2. 報告 1) 報告の留意点 2) 連絡の留意点 3) 相談の留意点 3. コミュニケーションを促す環境 1) 介護について（情報の共有の場、役割の認識の場） 2) ケースカンファレンスの重要性 <演習の実施方法> 事例（職員 A さんの記録）を読んで、気がついた点をグループで話し合い、わかりやすい記録とは何かを考える。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	①加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について生理的な側面から理解することの重要性に気づくことができる。 ②加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について自らが継続的に学習すべき事項を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うこころとからだの変化と日常	2	2	0	<講義内容> 1. 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 1) 喪失体験 2. 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 2) 咀嚼の機能低下 3) 加齢に伴う筋、骨、関節の変化 3) 体温維持機能の変化 3. 精神機能の変化と日常生活への影響 <演習の実施方法> 加齢による身体面、精神面・知的面、社会面の変化により、日常生活でどのような影響が出てくるのかをグループで話し合い、高齢者について理解を深める。
② 高齢者と健康	4	4	0	<講義内容> 1. 高齢者の疾病と生活上の留意点 1) 骨粗鬆症 2) 骨粗鬆症と骨折 3) 筋力の低下と動き・姿勢の変化 2. 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 1) 虚血性心疾患 2) 老年期うつ病症状、うつ病性仮性認知症 3) 誤嚥性肺炎 4) 感染症 5) 脳卒中 6) パーキンソン病 7) 変形性関節症 8) 関節リウマチ <演習の実施方法> 高齢者に多い病気について、グループごとに一つ選び、インターネット等を活用して調べ学習を行い、発表する。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	①介護において認知症を理解することの重要性に気づくことができる。 ②認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	1	1	0	<講義内容> 1. 認知症ケアの理念 1) 大切な一人としてかかわる 2) それぞれの面に注意を払った対応 3) パーソン・センタード・ケア 4) 認知症ケアの理念・視点 <演習の実施方法> 現在、自分が持っている認知症のイメージ、認知症介護のイメージについてグループで話し合いを行う。
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	2	0	<講義内容> 1. 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアポイント、健康管理 1) 認知症の定義 2) 原因疾患と病態、疾患別ケアのポイント 3) 認知症の似た症状を示す現象や疾患 4) 健康管理 5) 認知症の治療 6) 薬物療法 7) 認知症に使用される薬 <演習の実施方法> グループ活動を通じて、疾患別に応じた認知症のケア方法について考え、理解を深める。
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	2	0	<講義内容> 1. 認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴 1) 認知症の中核症状 2) 認知症の行動・心理症状 3) PACEP（パセップ）の視点 4) 不適切なケア 5) 生活環境の改善 2. 認知症の利用者への対応 1) 様子・表情・視線などから本人の気持ちを推察する 2) プライドを傷つけない、失敗しない状況をつくる 3) 認知症の進行に合わせたケア 4) コミュニケーションでの注意点 5) 若年性認知症の方への対応 <演習の実施方法> 認知症高齢者の方の事例を読んで、ある行動を引き起こす原因についてグループで考える。
④ 家族への支援	1	1	0	<講義内容> 1. 介護支援と介護の受容過程 1) 介護支援の視点 2) 認知症の受容過程での援助 3) 介護負担の軽減（レスパイトケア） <演習の実施方法> DVD ドキュメント「昨日が消えても」を視聴後、認知症の家族の方に対してどのような支援ができるかをグループで考える。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	DVD ドキュメント「昨日が消えても」
------------	---------------------

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	① 障害の概念と I C F、障がい者福祉の基本的な考え方について理解できる。 ② 障がいの特性に応じた介護における基本的な考え方について理解できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	1	1	0	<講義内容> 1. 障がいの概念と I C F 1) 障がいの概念 2) I C F の分類と医学的分類 3) I C F の考え方 2. 障がい者福祉の基本理念 1) ノーマライゼーションの概念 <演習の実施方法> 現在、自分が持っている障がいのイメージについてグループで話し合い、障がいのある方が心豊かに生活できる社会について考える。
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識	1. 5	1. 5	0	<講義内容> 1. 身体障がい 1) 視覚障がい 2) 聴覚障がい 3) 平衡障がい 4) 音声・言語・咀嚼障がい 5) 肢体不自由 6) 内部障害 2. 知的障がい 3. 精神障がい 1) 統合失調症 2) 気分障がい 3) 依存症 4) 高次脳機能障がい 5) 広汎性発達障がい 6) 学習障がい 7) 注意欠陥多動性障がい 4. その他の心身の機能障がい <演習の実施方法> 障がいについて、グループごとに一つ選び、どのような障害であるかを調べ、発表する。
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	0. 5	0. 5	0	<講義内容> 1. 家族の心理、家族を支援 1) 障がいの理解・受容支援、介護負担の軽減 2) 障がいの受容過程 3) 家族支援 <演習の実施方法> 障がいについて、グループごとに一つ選び、家族の方がどのようなことに困るか、またどのような支援が必要かを考え、発表する。
(合計時間数)	3	3	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	①介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得している。 ②安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護技術が身についている。 ③尊厳の保持と自立及び自律を尊重し、持てる力を生かしたその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
I. 基本知識の学習 ①介護の基本的な考え方	2	2	0	<講義内容> 1. 介護の基本的視点 1) 理論に基づく介護と法的根拠に基づく介護(8つの視点) 2) リスクマネジメント 3) 本人中心 4) 自立支援 5) ICFの視点とケア 6) 活動範囲の拡大 7) マズローの欲求段階説 8) 介助の5要素 <演習の実施方法> リスクマネジメント(外出時の転倒)から、発生時予防、発生時対応についてグループで考え、理解を深める。
I. 基本知識の学習 ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	4	0	<講義内容> 1. こころに関する基礎知識 1) 学習と記憶の基礎知識 (1)学習とは (2)記憶の種類 (3)記憶とケア (4)感情と意欲の基礎知識 (5)自己概念と生きがい (6)老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因 (7)こころの持ち方が行動に与える影響 (8)からだの状態がこころに与える影響 <演習の実施方法> 「こころの持ち方が行動に与える影響」と「からだの状態がこころに与える影響」についてグループで考える。
I. 基本知識の学習 ③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	4	0	<講義内容> 1. からだに関する基礎知識 1) 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 2) 骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 3) 中枢神経と末梢神経に関する基礎知識 4) 内部器官 5) 利用者の様子と普段との違いに気づく視点 <演習の実施方法> どのようなとき(場面・時間・場所など)に交換神経が働き、どんなときに副交感神経が働くかをグループで話し合い、理解を深める。
II. 生活支援技術の学習 ④生活と家事	2	2	0	<講義内容> 1. 家事と生活の理解、生活支援 1) 生活歴 2) 自立支援 3) 予防的な対応 4) 主体性・能動性を引き出す 5) 多様な生活習慣・価値観 <演習の実施方法> 主体性・能動性を引き出すにはどのような支援方法があるかグループワークを行い、理解を深める。
II. 生活支援技術の学習 ⑤快適な居住環境整備と介護	2	2	0	<講義内容> 1. 快適な居住環境に関する留意点と支援方法 1) 家庭内に多い事故 2) バリアフリー 3) 住宅改修 4) 福祉用具貸与 <演習の実施方法> 家庭内における不慮の事故とその事故を予防するためには、どのような方法があるかをグループで考え、理解を深める。

Ⅱ．生活支援技術の学習 ⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8	8	0	<講義内容> 1. 整容に関する基礎知識・支援技術 1) 身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 2) 身じたく 3) 整容行動 4) 洗面の意義・効果 <演習の実施方法：4時間> ①衣服の着脱について介護技術を学ぶ。 ・パジャマ⇄寝巻き（麻痺あり） ・かぶり物⇄前あきの衣服（麻痺あり）
Ⅱ．生活支援技術の学習 ⑦移動と移乗に関連したところとからだのしくみ自立に向けた介護	8	8	0	<講義内容> 1. 移動・移乗に関する基礎知識 1) 移動・移乗 2) 移動・移乗介助の基本視点 (1)利用者との双方が安全で安楽な方法 (2)利用者の自然な動きの活用 (3)残存機能の活用・自立支援 (4)重心・重力の働きの理解 (5)ボディメカニクスの基本原理 3) 移動・移乗介助 <演習の実施方法：4時間> ①移動・移乗の介助について介護技術を学ぶ。 ・ベッド⇄車椅子の移乗（麻痺あり） ・ベッド⇄ポータブルトイレの移乗（麻痺あり）
Ⅱ．生活支援技術の学習 ⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	<講義内容> 1. 食事に関する基礎知識 1) 食事の意義・目的 2) 食事のケアに対する介護者の意識 3) 低栄養の弊害 4) 脱水症の弊害 5) 食事の姿勢 6) 咀嚼・嚥下のメカニズム 7) 食事の環境整備 8) 食事に関した福祉用具の活用と介助方法 9) 食事動作の姿勢変化 10) 口腔ケアの定義 <演習の実施方法：2時間> ①食事介助及び口腔ケアについて介護技術を学ぶ。 ・視覚障害者の場合及び麻痺がある場合
Ⅱ．生活支援技術の学習 ⑨入浴、清潔の保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	10	10	0	<講義内容> 1. 入浴、清潔保持に関する基礎知識 1) 入浴の意義・目的 2) 入浴介助での基本 3) 身体の清潔介護 4) 更衣動作 5) 入浴動作 <演習の実施方法：6時間> ①身体の清潔における介助について介護技術を学ぶ。 ・全身清拭の介助 ・手浴・足浴の介助及び簡易浴槽の介助 ・ベッド上での洗髪介助

Ⅱ．生活支援技術の学習 ⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8	8	0	<講義内容> 1. 排泄に関する基礎知識 1) 排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連 2) 自立支援の視点 3) 排泄介助 <演習の実施方法：4時間> ①排泄介助の介護技術について介護技術を学ぶ。 ・紙オムツでのオムツ交換及び便尿器の使い方 ・布オムツでのオムツ交換
Ⅱ．生活支援技術の学習 ⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8	8	0	<講義内容> 1. 睡眠に関する基礎知識 1) 睡眠の意義・目的 (1)眠りたくないとき (2)意義・目的の効果を高める工夫 (3)睡眠障害について (4)睡眠薬について (5)個人差 (6)一般的注意と工夫 (7)夜間頻尿の予防 (8)安眠のための介護の工夫・環境整備 (9)睡眠ケアの工夫 <演習の実施方法：4時間> ①利用者の方が寝た状態のシーツ交換・褥瘡予防・環境整備 ②安楽な体位及び麻痺を考えての体位変換
Ⅱ．生活支援技術の学習 ⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	3	3	0	<講義内容> 1. 終末期ケア（ターミナルケア） 1) 終末期ケア（ターミナルケア）とは 2) 死に至る過程 <演習の実施方法：2時間> ①介護現場のターミナルケアについて事例をもとに、ロールプレイングを実施する。
Ⅲ．生活支援技術演習 ⑬介護過程の基礎理解	4	4	0	<講義内容> 1. 介護過程の基礎知識 1) 介護過程の目的・意義・展開 2) 介護過程とチームアプローチ 3) チームアプローチ <演習の実施方法：3時間> 事例をもとに、介護計画を立案する。 ①アセスメント（情報収集）の方法 ②アセスメントの分析 ③プランの作成（短期目標・長期目標）
Ⅲ．生活支援技術演習 ⑭総合生活支援技術演習	6	6	0	<講義内容> 1. 総合生活支援技術について <演習の実施方法：5時間> 下記の事例についてグループで検討し、グループ発表を行う。 ①心身の状況にあわせた介護を提供する視点を学ぶ 事例1 脳卒中後麻痺の利用者 事例2 認知症の利用者
(合計時間数)	75	75	0	

使用する機器・備品等	視聴覚 DVD、ベッド、シーツ、寝巻き（浴衣）、パジャマ、車椅子、ポータブルトイレ、自助具、食器、アイマスク、清拭車、バケツ、洗髪器、紙オムツ、布オムツ、便尿器、T 字杖、四点杖、口腔ケア用品、簡易浴槽
------------	---

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再認識を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	2	2	0	<講義内容> 1. 振り返り 1) 研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶこと 2) 根拠に基づく介護 <演習の実施方法> 研修を通じて学んだことを、一人ひとり発表し、クラス全体で共有する。
② 就業への備えと研修修了後における実例	2	2	0	<講義内容> 1. 継続的な研修について 1) 勉強・学習・研修の意味 2) 現場での研修・研鑽 <演習の実施方法> ワークシートを活用して、将来どのような介護職を目指したいかを記入し、そのためにはどのような研修等が必要か考える。
⑤				
⑥				
⑦				
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。